

## 「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

## 気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

## 目次

- ・用語解説  
「地球温暖化対策推進大綱」…… P.1
- ・団体会員紹介  
「CASA」…… P.2
- ・新スタッフ紹介・会員の声・こんなことできる…… P.3
- ・「インターン制度」の紹介・本の紹介・ボランティアの声…… P.4

# 温暖化防止

# ストリート

街角

道

KIKO NETWORK 2007-11-17

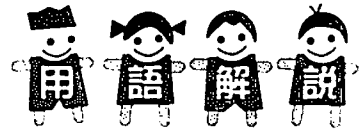
気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

## 第7号

2004.5.1

よく聞くけど

「ん？」何だったかなーっと思う



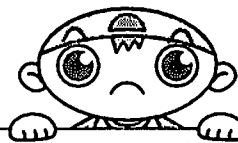
## 用語：地球温暖化対策推進大綱？

現在、「地球温暖化対策推進大綱の見直し」が行われていて、気候ネットワークでも評価・検討・提言を行っています。この大綱について簡単に説明します。1997年12月の「京都議定書の採択」を受けて、政府は1998年6月に「地球温暖化対策推進大綱」を決定しました。これは2010年に向けて推進すべき地球温暖化対策と国の施策をとりまとめたものです。したがって、これが国内の温暖化対策の基礎となるものです。

その後、日本が京都議定書を批准するにあたって、2001年3月に大綱の「改定」を行い、「新大綱」となりました。しかしながら、基本的な内容は変わらず、温室効果ガスの削減を確実にするような施策や措置はほとんど含まれていません。

新大綱では「ステップ・バイ・ステップのアプロー

チ」が取り入れられ、2004年までを第1ステップ、2007年までを第2ステップ、2008～2012年を第3ステップとしています。この第2ステップに向けて大綱の見直しが行われています。今年しっかり評価をして、第2ステップには実質的な温暖化対策が進むような大綱になることが望まれます。



ここが問題！

- ・策定プロセスが不透明。
- ・市民参加・情報公開が不十分。
- ・削減効果のある政策・措置が少ない。

# 各地で活躍する仲間たち

## 大阪

今回は、大阪市にある、「地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）」の紹介です。事務局の福村さんから紹介していただきました。



福村 由起さん

CASAは、1988年、大阪・西淀川の大気汚染公害被害者とこれを支援していた科学者、また早くから地球環境問題に取り組んでいた消費者グループなどが集まって設立されました。現在、主に地球温暖化問題について取り組んでいます。気候変動枠組条約締約国会議（COP）などの国際会議に参加して情報収集をしたり、気候ネットワークをはじめとする国内の温暖化問題に取り組むNGOと連携し、日本政府に対して積極的に働きかけをする一方、地球温暖化問題のみならず、さまざまな環境問題を広く知ってもらうための市民向け講座「地球環境大学」や、研究会・シンポジウムなども開催しています。5月から今年の地球環境大学が始まりますが、戦争は最大の環境破壊である

との考えから、「戦争と環境破壊」と題し、劣化ウラン弾による被害やイラクの状況などを取り上げる予定です。

また、次代を担う子供たちに、環境問題についての正確な知識を持ち、自ら考えて行動することのできる自立した市民に育ててもらいたいという願いから、環境教育の分野にも取り組みを広げています。2000年4月に環境教育教材「地球温暖化」を刊行したのに続き、4月末には廃棄物問題についての教材「ごみと私たちの暮らし」が完成の予定です。これらの教材は、主に学校での「総合的な学習の時間」で環境教育を行ってもらうために製作されたものですが、地域での環境講座など、大人向けにも使うことが可能です。最近では地域の人たちが学校へ出向いて環境教育などをした「出前講座」も各地で広がりを見せていますが、そういった人材を増やしたいと、昨年には「出前講師養成講座」を開催しました。今年も引き続き開催する予定です。



多様な人が参加する地球環境大学チームのミーティングの様子

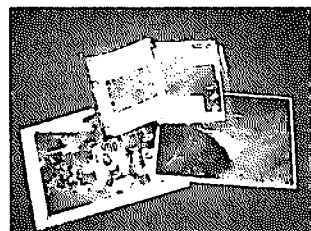
ところで、CASAの活動には幅広い年齢の人たちがボランティアとして参加しており、大きな支えになっています。例えば地球環境大学では、従来はテーマに即した講師に来ていただいていたが、昨年は、運営に関わるボランティアの人たちが自分たちで資料を探し、まとめて自分たちで発表するという手作り講座に大きくスタイルを変えました。当日の運営だけではなく、中身をどのようなものにするか議論を重ね、作り上げていくことはとてもたいへんな作業でしたが、それだけに終了後の満足感も大きかったと思います。今年も同様にボランティアの人たち主体の運営で、準備が着々と進められているところです。地球環境大学以外にも、教材の作成チームやニュー

スレターの編集など、すべてボランティアの人たちが積極的に関わってくださっており、こうした人たちなしにはCASAの活動は成り立ちません。

その他、「市民が取り組む省エネ活動—省エネチャレンジ」と題した環境家計簿を使った省エネ活動を展開しています。家庭における省エネは重要な温暖化対策の一つであり、市民が身近に取り組める活動です。

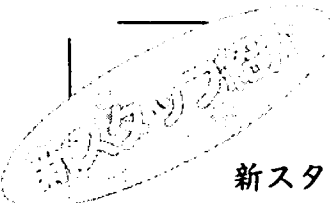
また、気候ネットワークなど関西の他の団体や個人が参加して、市民共同発電所の取り組みも始めています。

これらの取り組みを通じて、環境問題を感じ、行動してもらえよう、今後も活動を広げていきたいと考えています。



CASAが製作した環境教育教材

特定非営利活動法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）  
〒540-0026 大阪市中央区本町2-1-19内本町松屋ビル10-470号室  
TEL：06-6910-6301 FAX：06-6910-6302  
E-mail：office@casa.bnet.jp URL：http://www.netplus.ne.jp/casa/index1.htm



## 新スタッフ 豊田 陽介

この4月から気候ネットワークのスタッフとなった豊田陽介です。

私が気候ネットワークに関わり始めて、早5年になります。しかし、まさか自分がスタッフになる日が来ようとは思っても見ませんでした。

大学院を修了してから、2年間、京エコロジーセンターの職員として、NGO/NPOと連携したパートナーシップ事業を主に担当していました。「自然エネルギー学校・京都」や「太陽光発電キット貸し出し事業」など、気候ネットワークとパートナーシップを組んで事業を行うこともあり、外から気候ネットワークを見る良い機会となりました。

昨年、木原くんが京都府センターに移り、実質その抜けた穴を埋めることになりました。野球で言えば松井の代役を務める高橋の気分ですが、自分の得意分野（自然エネルギー、昼食？）でカバーしていくつもりですので、温かく見守ってください。これからよろしくお願いいたします。



## 原 佐代子さん（滋賀県）

私の職場ではISO14001を取得しています。昼休みになると事務所の電気は消され、まるで人がいないかのようになります。夏暑く冬寒い京都盆地で、エアコンの設定を緩くしたらなおさら過酷になります。それでも、電気使用量が5%近く削減できたと聞くややる気になります。昼休みになると張り切って電気を消して回る上司を見ていると、ささやかな事でも、こうして省エネの意識を持つ人が増えるのは素晴らしい事だと思うのです。

ポットで長時間お湯の保温をしないこと。パソコンはハードだけでなくモニターの電源も切ること。裏紙を利用すること。家で実践するのは容易なことでも、オフィスで提案し、徹底するのは大変です。けれど、どんなに小さな事でも自分のできる事から輪を広げていきたいと思います。

皆様のご意見・自由なご発言を募集しております。皆様の声を遠慮なくお寄せください。次号は、7月発行ですので、6月20日までに「連絡ください」。



## 温暖化防止

### こんなことできる！



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」でできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

## 今回のテーマは「省エネ製品」

冷蔵庫やエアコンなどの買い替えをお考えの方、必見！！  
環境にもお財布にもやさしい、買い物上手になろう。

「うちの冷蔵庫はまだ使えるのだけれども、電気代は今の冷蔵庫の方がずっと安いと聞く。でも捨てるのも忍びないし、どうしたらいい？」こうした問題を考える時には、製品のライフサイクル（製造されてから使用され、捨てられるまで）全体でのCO2排出量（LCCO2）をみるのがひとつの鍵になります。

例えば松下電器産業の「環境経営報告書2003」によれば、1991年製造の冷蔵庫の平均的なライフサイクル全体のCO2排出量を100とすると、その内製造時のCO2排出量は4%に過ぎず、使用時が残りの96%です（平均使用年数12年の場合）。これが2002年に発売された省エネ型ノンフロン大型冷蔵庫になると、

製造時のCO2排出量は変わらず、使用時のCO2排出量は91年の約1/6で済みます。つまり、11年前の冷蔵庫を省エネ型に買い換えると、大体1年以内に製造時のCO2排出量を取り返すことが出来るわけです。

もっとも、車やエアコンなど、使い方によってCO2排出量が大きく変わる機器の場合は一概には言えません。平均して7~8年で買い換えられる乗用車だと、走行距離が多くない場合は、ハイブリッド車に買い換えるより、今の車をしばらく使う方がCO2排出量が少なくなる可能性があります（「日経エコロジー」2004年5月号参照）。

伊東 真吾（ひのでやエコライフ研究所）

## 「インターン制度」のご紹介 気候ネットワークは多くのインターン生を受け入れています!

最近、企業や行政だけでなくNPOがインターンの受け入れ先の一つとなっています。気候ネットワークも2000年からインターンの受け入れを始め、年々受け入れ人数が増えてきました。

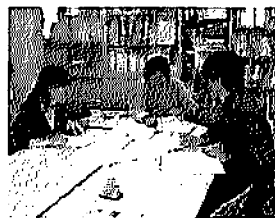
昨年度は、損保ジャパン環境財団、大学コンソーシアム京都、立命館大学より、合計8名のインターン生に活動していただきました。インターンの期間は1ヶ月~8ヶ月と様々ですが、できるだけ具体的なプロジェクトを担当していただき、責任のある立場として活動していただくようにしています。

インターン生は、決められた事務をこなすだけではないので、負担となることもあります。研究会への参加や他のボランティアとの交流を通じて、様々なノウハウを蓄積し、より成果をあげていただいていると思います。気候ネットワークでの活動を通じて、温暖化の知識やNGO活動について理解を深めたり、社会との接点を増やすことにつながっているのではないのでしょうか。

今後とも多くのインターン制度とのつながり、インターン生の受け入れと交流を大切にしたいと思います。



担当プロジェクトでの様子



打ち合わせの様子

おすすめの本の紹介です。

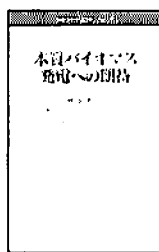
## 本の紹介

紹介者：成田真澄（温暖化防止住宅・まちづくり研究会・コーディネーター）

### 林業改良普及双書 NO.135 「木質バイオマス発電への期待」

著者：熊崎実、編集・発行：社団法人 全国林業改良普及協会2004年1月17日 第1刷発行

木質バイオマスエネルギー利用の中でも、熱と電気の両方を利用する「熱電供給システム」に関する入門書です。基本的な技術的内容だけでなく、地球温暖化問題や日本の林産業の視点から、木質エネルギーの考え方や留意点が書かれています。アメリカやヨーロッパ、北欧等における政策や現状、課題から、森林の管理方法



まで紹介されていますが、日本においては可能性の示唆に留まっています。しかし、全国各地で、本書に勇気づけられた自治体やNPOなどによって、木質エネルギーの利用への取り組みが広まりを見せたと言われています。バイオマスエネルギーだけでなく、温暖化問題における森林の位置づけや、森林利用について関心がある方にお薦めです。

<本体923円+税 182ページ>

## ボランティアの声



気候ネットワークでは  
たくさんのボランティアが  
一緒に活動しています。  
そのボランティアからのコメント!

### 新ボランティアチーフ（京都）岩政明恵さん

立命館大学4回生の岩政です。気候ネットワークの活動に関わり、1年がたち、自分の環境問題への意識も高まり視野が広がってきたことを実感しています。

今、自分に出来ることが例え微々たるものでも、その積み重ねはとても大事です。今年はボランティアチーフという機会をいただいたので、多くの方々との出会いを楽しみにしています。私の持っている知識や経験はまだまだ浅いですが、みなさんと一緒に勉強していけたらと思っています。よろしくお願いします。

## 編集後記

今号から、ストリートのデザイン・編集を担当することになりました、中野大です。季節感溢れ、希望に満ちた編集後記を書いたのですが、事務局長の「堅い！」の一言で差し替えとなりました…（汗）。

デザイン・編集には写真の処理をはじめ、細かい作業がいくつもあり、予想外の苦労がありました。先代の岡さんの繊細さ、そして木原さんの偉大さを身にしみて感じました。これからどうぞよろしくお願ひします。

（マサル）



## 特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表：浅岡美恵 / 副代表：須田春海 / 事務局長：田浦健明

URL : <http://www.jca.apc.org/kikonet/>

「温暖化防止・ストリート」7号  
2004年5月1日発行（隔月1日発行）  
編集・DTP：中野大

京都事務所（本部）  
〒604-8124 京都市中京区高倉通四條上る高倉ビル305  
TEL：075-254-1011 FAX：075-254-1012  
E-mail：kikonet@jca.apc.org

東京事務所  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F  
TEL：03-3263-9210 FAX：03-3263-9463  
E-mail：kikotko@jca.apc.org

本誌100号の再生紙に大豆インクを使用し、電力発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座：00940-6-79694（加入者名：気候ネットワーク）  
銀行振込口座：東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852（気候ネットワーク）